

盛岡大学短期大学部食物栄養科 47 年のあゆみ

—— 教育課程の変遷 ——

阿 部 久 佐

まえがき

平成 22 年 4 月に盛岡大学短期大学部食物栄養科を改組して盛岡大学に栄養科学部栄養科学科が開設されました。食物栄養科は平成 22 年 4 月に学生募集を停止し、平成 23 年 3 月に廃止されることになりました。

平成 23 年 1 月、食物栄養科長から食物栄養科を閉科するに当たって、食物栄養科が開設されてから今日までの学科のあゆみをまとめていただきたいとの依頼がありました。

私には、あまりにも大きな課題であり重責に思いましたが、この年代を食物栄養科に勤務させていただいた者として取り組むことにしました。

どのような内容にしようかと思いましたが、私は教務に係わった期間が長かったので、食物栄養科 47 年の教育内容の変遷について、各時代の授業科目を取り上げ、その時代の人材育成の目的とその姿勢を明らかにすることにしました。47 年間の授業科目を検索するには「学生便覧」を、便覧がない時代については「大学入学案内」等を資料としましたが、ここにも 47 年の歴史を感じました。

食物栄養科の変遷を授業科目の観点からみていくうえで、食物栄養科の設置の目的が栄養士養成であることも大切なことでありました。過去 47 年の間には何度も栄養士法の法改正が行われました。大幅改正の場合には、その主旨に適合させるために授業科目を変更しなければならなかったこともありました。したがって、本稿では栄養士法等の改正経過を踏まえながら教育課程の変遷について考察しました。

平成 23 年 3 月

1 食物栄養科のあゆみ（概略）

昭和 39 年 4 月に盛岡栄養専門学校を母体として「生活学園短期大学」が設置され、食物栄養科が開設された（現盛岡市みたけ）。食物栄養科の開設の目的は認可申請書に、「本学はキリスト教精神により、教育基本法の趣旨に基づき、豊かな教養を与えると共に栄養に関する学術を中心とした生活科学につき教授研究し、特に食生活の改善及び指導に貢献する栄養士の育成を図り、もって生活向上に寄与することを目的とする。」とあり、明らかに栄養士の養成を主目的として開設されたのである。

本学科は開設と同時に栄養士養成施設として厚生省から指定を受け、入学定員 50 名の出発であったが、初年度に収容定員の定員増が認められ、昭和 40 年 4 月から 100 名となった。昭和 40 年 2 月に教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定（中学校家庭）を受け、第 1 回生から教職課程を履修できた。以来栄養士養成と中学校教員養成は、平成 11 年度末に教職課程を廃止するまでは本学科の両輪であった。

昭和 41 年に保育科を増設し、保母養成と幼稚園教諭の養成を開始した。保育科は収容定員に係る学則変更を昭和 47 年（50 → 80）と 52 年（100 → 150）に行い、昭和 52 年に幼児教育科と改称した。

また、昭和 56 年に盛岡大学文学部が設置された。当初は英米文学科（後に英語文化学科と改称）と児童教育学科の 2 学科だったが、後に日本文学科（昭和 62 年）、社会文化学科（平成 17 年）を増設した。大学の発展に伴い短期大学教育も充実してきた。

平成 2 年、校名を盛岡大学短期大学部と改め、盛岡市みたけから滝沢村砂込のキャンパスに移

転した。

昭和 60 年と平成 12 年に栄養士法的大幅改正が行われ、教育課程の検討が行い授業科目等の変更を行った。平成 17 年には栄養教諭の制度が実施され、平成 11 年度末に一旦廃止した教職課程を栄養教諭二種免に係る教職課程として再び設置された。

平成 22 年 4 月に食物栄養科を改組して盛岡大学に栄養科学部栄養科学科が開設され、食物栄養科は平成 22 年 4 月に学生募集を停止し、平成 23 年 3 月に廃止することになった。ここに 47 年間の幕を閉じたのである。そして本学科の卒業生は 4,951 名に達し、その専門性を生かしてそれぞれの領域で活躍している。

食物栄養科の年表を資料 1 に、年度別の卒業生数を資料 2 に示した。

2 教育課程の変遷

(1) 栄養士法施行規則と教育課程の編成

昭和 20 年 4 月には栄養士規則が制定され、栄養士の身分、業務、養成制度が法的に裏付けされた。さらに昭和 22 年 12 月には日本国憲法の下に栄養士法が制定され、翌 23 年 1 月から施行された。

昭和 37 年の法改正では、資質向上の社会的要請を受けて管理栄養士制度が生まれ、管理栄養士養成施設および管理栄養士試験制度が始まった。さらに、昭和 60 年の法改正では、栄養士試験が廃止され、栄養士免許取得は養成施設卒業のみになり、管理栄養士の資格取得はすべて国家試験が義務づけられた。

そして平成 12 年には 21 世紀に向けた管理栄養士の資質向上、専門性の強化を目指し、また資格を登録から免許制に、業務に傷病者に対する療養上の栄養指導等を位置づけるなどの法改正が行われた。

栄養士養成施設の教育の内容、教員の組織、数及び資格、施設の構造設備等については、厚生労働省令である栄養士法施行規則に規定されている。各栄養士養成施設は、栄養士法施行規則の指定基準に従って具体的な教育課程の編成を行い、認可を受けている。この栄養士法施行規則も昭和 38 年以降、41、48、61、平成 4、

13 年に改正されている。

(2) 開学当初の教育課程

開学時（昭和 39 年）は、本学科の設置の目的は栄養士養成の教育であり、栄養士法施行規則に規程されている授業科目の種類と内容が教育課程の基本であった。開学時の教育課程表を資料 3 に示す。

教育課程は、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目別に表示されており、専門教育科目は「栄養学」（16 単位）、「食品学」（10 単位）、「公衆衛生学」（6 単位）、「食品衛生学」（4 単位）、更に「栄養指導」（6 単位）、「調理」（9 単位）、「食糧経済」（2 単位）「社会福祉」（2 単位）が開設されている。「調理」は昭和 38 年に改正された栄養士法施行規則の指定基準では 4 単位であるが本学は 9 単位開設している。その他は指定基準と同じである。

専門教育科目には、指定基準以外の科目、家庭看護学（2）、育児学（2）、被服学（2）、衣料学（2）、被服構成及び実習（2）、家庭機械及び工作（2）、住居学（2）、家庭管理（2）が開設されているが、設置申請の時点で教職課程の設置を予定していたため、教科（家庭科）に関する科目を選択科目として開設している。

昭和 40 年に教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程を設置し、中学校家庭科教員養成のための文部省で定めている教職に関する授業科目（教育原理、教育心理学、青年心理学、道德教育の研究、家庭科教育法、教育実習（いずれも 2 単位））が追加された。以来、栄養士養成課程と中学校教員養成のための教職課程は食物栄養科の両輪となった。

昭和 41 年に栄養士法施行規則の指定基準が改正になったが、科目の配置の変更が見られる程度であった。保育科が増設された昭和 42 年度教育課程表を資料 4 に示す。

(3) 昭和 48 年の栄養士法施行規則改正に伴う変更

昭和 48 年の改正では科目名および総単位数の変更はないが、単位の配分が変更になっている。栄養学が 16 単位から 14 単位に、栄養指導が 6 単位から 9 単位に、調理が 4 単位から 5 単

位に増加し、食品学が 10 単位から 9 単位に、社会福祉が 2 単位から 1 単位に減少している。また、「病態栄養学」「公衆栄養」「校内実習」「校外実習」の科目名が初めて使われた。これに対し本学では栄養学 15 単位、栄養指導 10 単位、調理が 6 単位、食品学が 9 単位、社会福祉が 1 単位開設している。昭和 51 年の教育課程表を資料 5 に示す。

その後、昭和 61 年までは教育課程の大きな変更はなかったが、「校内実習」や「栄養統計」などいくつかの授業科目に教育の特色が見られる。「校内実習」の単位数は規程より多く開設し、附属の 3 幼稚園（愛育幼稚園、生活学園短期大学附属幼稚園、松園幼稚園）は開設当初から幼稚園の完全給食を実施していたが、本学科においても幼児食の研究に力を注ぐと共に学生の実力の養成の場（幼稚園給食実習）として校内実習の単位の中に位置づけられていた。また、「栄養統計」は衛生統計学や生活統計の一部として扱われていたが、栄養所要量や基礎代謝の比較、栄養指数の工夫など将来の国民栄養の改善の立場から栄養統計学の充実の必要性があり開設された。

（４）昭和 61 年の栄養士法施行規則改正に伴う変更

昭和 60 年の栄養士法等改正の趣旨は、人生 80 年時代を迎え、成人病等の慢性疾患が増加

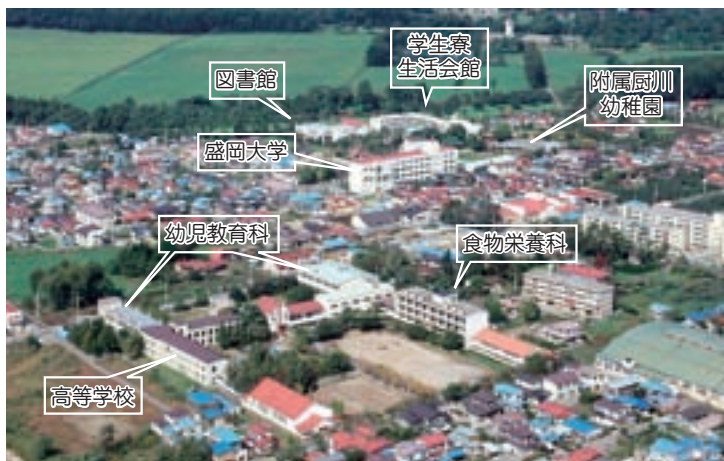
している中で、国民の健康を確保し活力ある社会を建設していくためには、これらの疾患と関連の深い食生活の改善指導の充実を図る必要がある、専門職としての栄養士及び管理栄養士の資質の向上を図ると共に、特に栄養改善上の必要性の高い場合には専門職である管理栄養士の指導が確保できる体制を整備しようとするものであった。

教育課程編成基準の総単位数については、栄養士養成施設 50 単位と変化がないが、管理栄養士養成施設 75 単位は 1 単位減少している。

専門教育科目名が大きく変化し、「解剖生理学」「運動生理学」「生化学」「食品加工学」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「食生活論」などが新たに科目名として示された。また、翌昭和 62 年には、「各教科の主たる内容（例）」が別紙で示され、また、「栄養学」および「食品学」については、それぞれ、総論、各論に分けて科目設定することとされた。本学の教育課程もほぼ基準に沿って変更された。昭和 62 年度の教育課程表を資料 6 に示した。

（５）昭和 62 年文部省認定の家庭料理技能検定の実施

家庭料理技能検定とは、栄養学と料理学を組み合わせた実践的な文部科学省認定の資格である。1～4 級があり、各レベルとも献立作成や調理法、食品成分、食品衛生などの知識を問う



みたけ校地および厨网校地（昭和 56 年撮影）

筆記試験と、課題に応じた指定調理などを行う実技試験がある。

昭和 62 年に第 1 回の家庭料理技能検定の会場を引き受けた。当初は希望者のみであったが、第 3 回受験から食物栄養科 1 年生全員が受験するようになり、食物栄養科の教員が役割分担して技能検定の業務を担当するようになった。また、最初の頃は 4 級、3 級の 2 つの階級を受験していたが、平成 12 年度から 3 級のみを受験となった。学生の実力養成を目的とした技能検定であった。

(6) 平成 4 年の栄養士法施行規則改正に伴う変更

大学設置基準等の大綱化に対応した改正である。基礎教育科目の変更であり、専門教育科目についての変更はみられない。基礎教育科目に設定された 12 単位以上については、「基礎教育科目以外の必修科目その他の専門的な科目についての単位をもって代えることができる」とされた。

この改正の趣旨は「個々の栄養士・管理栄養士養成施設が、その養成理念・目的に基づき、栄養士・管理栄養士をめぐる環境の変化や社会の要請に適切に対応しつつ、自主的に多様かつ特色ある指導を展開し得るよう養成施設の指定に係る基準の弾力化を図るものである。」とされる。

本学科では、平成 12 年度から一般教育科目、外国語科目、保健体育科目の科目区分を廃止して教養教育科目としたが、単位数は教養教育科目 12 単位、専門教育科目 50 単位と変更はなかった。さらに新しく「情報処理入門」を教養教育科目に、「食の美学」、「人間環境学」、「高齢者と栄養」を専門教育科目の中にそれぞれ加えた。

(7) 平成 11 年度教職課程の廃止、および平成 12 年度フードスペシャリスト養成課程の設置

平成 12 年度に教職員免許法の一部改正に伴う再課程認定の申請の時期を迎え、中学校二種免許状（家庭）に関する再課程申請を行うかどうかの問題が、平成 10 年度に論議された。その結果、教職課程履修者が少ないこと、教員採用試験における合格者がここ数年いないこと、

さらに、教員採用そのものが激減していることなどの理由により、平成 11 年度末をもって教職課程が廃止された。

また、本学科の特色づくりの一環として、平成 12 年度からフードスペシャリスト養成課程を設置した。フードスペシャリストとは、「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消費者に提案できる力を持つ「食」の専門職である。フードスペシャリスト養成の教育課程では、食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「もてなし」にあることをしっかり学び（フードスペシャリスト論、フードコーディネーター論）、それを支える官能評価・鑑別論、調理学、食物学などの教育に力を入れている。養成機関を卒業（予定）し、必修科目をきちんと修め、資格認定試験に合格して初めて、フードスペシャリスト資格認定証を手にすることができた。（資料 7 を参照）

(8) 平成 13 年の栄養士法施行規則改正に伴う変更

平成 12 年に栄養士法が改正され、『栄養士』は栄養士の名称を用いて栄養の指導をする。『管理栄養士』は、「複雑または困難な栄養の指導等」から「傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導」、「個人の身体状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導」、「特定給食施設における利用者の身体状況栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理と栄養改善上必要な指導等」と明文化された。また、管理栄養士国家試験受験資格の実務経験も 2 年から 3 年となった。

平成 13 年栄養士法施行規則の改正により、科目表示から教育内容の表示となり、「基礎分野」「専門分野」に分けての表示となった。専門教育分野の総単位数は専門分野 50 単位と変化がないが、実験又は実習は分野ごとの表示となった。

本学科では、栄養士必修単位を法で規定された 50 単位とし、実務・実践に強い栄養士養成を目標に、実験・実習単位は実習を多く設定した。

分野別では『人体の構造と機能』には無機的な環境が人体にどのような影響を及ぼすかを学ぶ「人間環境学」を、『栄養の指導』には栄養業務に係わるパソコンの技術を修得する「栄養情報処理実習」を、『給食の運営』には和・洋・中のシェフによる「専門調理実習」を配置し目標の達成に心がけた。また、「食事計画論」「食文化論」「健康づくり論」など独自の授業科目を卒業必修単位に設定し、幅広い栄養士の養成を目指した。資料 7 に平成 14 年度の教育課程表を示した。

また、専任教員全員で取り組む「専門基礎演習」(2 単位) を 1 年次に開講し、専門への興味・関心を引き出すための導入とした。この演習は、いわゆる卒業論文を作成するというものではなく、所属する学生の学生生活の指導もしながら、それぞれの教員の専門分野に触れ、学生の興味ある分野の専門的な知識を伸ばしていこうとするものである。演習テーマの例をあげると、栄養学基礎演習、地域と調理について、環境科学、食とことば、調理学演習、献立作成演習、運動指導の実際、水と心の科学、食品衛生学等であった。

(9) 平成 16 年度栄養士養成施設協会認定栄養士実力試験の実施

栄養士免許は、栄養士法第 2 条の規定により、「厚生労働大臣の指定した栄養士の養成施設において、2 年以上栄養士として必要な知識及び技能を修得した者」に対して、申請により都道府県知事免許が交付されている。わが国におけるコ・メディカルの職種においては、ほぼ全て養成施設修了後国家試験が実施され、これに合格しなくては資格取得は不可能となっている。このような現状を見るに、栄養士が国家試験なしで資格取得できるため、世間では資質の高い栄養士であるにもかかわらず、資質が不均一だと思われがちである。協会認定栄養士実力認定試験は、栄養士の資質向上と質の均一化を図ると共に、各養成施設の教育に関する認識の強化を目的として平成 16 年度から実施された。本学科では平成 16 年度から協会認定栄養士実力試験に参加した。試験対策として、あるいは栄養士養成教育の総まとめとして「栄養士総合演

習」という科目を 2 年次の後期に開設して教育の効果を上げた。

(10) 平成 17 年栄養教諭二種免に関する教職課程を設置

食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し、食生活の多様化が進む中で、朝食をとらないなど子どもの食生活の乱れが指摘されている。子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、栄養や食事のとり方などについて正しい知識に基づいて自ら判断し、食をコントロールしていく「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を子どもたちに身につけさせることが必要となっている。

こうした現状を踏まえ、平成 17 年に食育基本法が、平成 18 年に食育推進基本計画が制定され、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくことが重要となっている。

このため文部科学省では、食に関する指導(学校における食育)の推進に中核的な役割を担う「栄養教諭」制度を創設し、平成 17 年度から施行された。

本学科では、平成 17 年に栄養教諭二種免に関する教職課程を設置した。平成 17 年度の教育課程表を資料 8 に示した。「栄養に係る教育に関する科目」として栄養教育情報処理演習(2)、児童の栄養管理と指導(2)を、「教職に関する科目」として教職総論(2)、教育原理(2)、教育心理学(2)、教育制度論(1)、教育課程及び方法(2)、道德教育の研究(2)、特別活動の研究(2)、生徒指導の研究(2)、教育相談(2)、教育演習(2)、栄養教育実習(3)、13 科目 26 単位が追加された。

(11) コンピュータの導入について

栄養士養成におけるコンピュータ使用の目的は、第一に学生の就職先である病院、事業所などで栄養士業務のコンピュータ化が進んでいるので、これに対応した基礎知識の学習と訓練である。第二には教育の効率化と内容の充実である。

昭和 60 年に栄養士法が改正になる際に、養

成校の備えるべき教育機器の中にコンピュータの名前が案として載ったことがあった。

このような情勢の中、昭和62年9月にパソコンを導入して栄養指導論の授業内容に組み入れた。10台程度のパソコンのオフライン利用で、授業内容は、1年生の後期は市販のソフトを使っの栄養素量の計算と、基本的な統計処理の学習である。そして、2年生で給食管理、栄養指導といった内容の学習に使用した。

平成2年、砂込キャンパス移転と共に、大規模コンピュータ・システムを導入した。導入されたシステムは、パソコン42台を端末に、ホスト・コンピュータとLANで接続している。さらに、授業の効果を上げるため、AV-NET、大型ディスプレイを接続、本格的かつ大規模な教室システムであった。

本学科ではコンピュータを給食管理、栄養指導論の2科目を中心に、献立作成、あるいは栄養調査のデータ解析などの演習を行っていた。「一太郎」「Lotus」「栄養君」などの市販ソフトを利用している。平成4年から正規の教育課程に組み入れ、「情報処理演習」をスタートさせた。

平成13年改正の栄養士法施行規則では、養成校の備えるべき教育機器の中にコンピュータが加えられた。栄養士必修科目としての「情報処理入門」、「栄養指導論実習」「給食管理実習Ⅰ」等でコンピュータを使用して演習を行った。さらに「統計の基礎」科目でも使用した。主な

使用ソフトは、Excel、Word、栄養君、Power Point である。

また、平成17年度開設された栄養教諭免許取得のために「情報処理入門」「栄養教育情報処理演習」が必修科目となっている。課題作成等でも学生がパソコンを使用しており、コンピュータ教室の使用頻度が高かった。

平成17年にコンピュータ教室を改修し、64台のパソコン、32台のプリンタを設置したコンピュータ教室と10台のパソコンを設置した補助教室の2教室を整備した。

また、平成13年に、創立50周年記念事業の一貫としての教育研究ネットワークの構築が計画され、研究室、事務室は学内LANで結ばれ、諸連絡を始め、教育研究に使用されている。学生には、入学時に電子メールのアカウントを発行し、Web mailシステムにより学内はもとより、学外からも電子メールの送受信ができる環境を構築した。また、学内の一部の区域では、無線LANを提供しており、自由にインターネットを利用した研究や調査が行えるように配慮している。

(12) その他の取得できる免許及び資格

希望により社会福祉主事任用資格、ワープロ技能検定、漢字能力検定などが取得できた。

さらに、平成12年度から盛岡福祉専門学校と提携し、訪問介護員（ホームヘルパー）2級の資格を取得できるコースを開設していた。



生活学園短期大学 食物栄養科（昭和39年～平成2年）

3 資料

資料1 食物栄養科の年表

昭和 26 (1951) 年 6 月 15 日 各種学校盛岡生活学園設置認可	生活学園短期大学附属幼稚園開園
昭和 27 (1952) 年 4 月 1 日 盛岡生活学園開校（盛岡市三戸町） 家政科・栄養科を設置	昭和 43 (1968) 年 8 月 20 日 生活会館（学生寮）落成
昭和 29 (1954) 年 4 月 1 日 盛岡生活学園栄養科、栄養士養成施設 として厚生省から指定	昭和 44 (1969) 年 11 月 20 日 生活学園図書館落成
昭和 31 (1956) 年 3 月 20 日 学校法人生活学園の設立認可（のちに 学校法人盛岡大学に変更）	昭和 48 (1973) 年 4 月 1 日 松園幼稚園開園
昭和 32 (1957) 年 4 月 1 日 愛育幼稚園開園	昭和 49 (1974) 年 9 月 30 日 八幡平校舎落成する
昭和 32 (1957) 年 8 月 1 日 盛岡生活学園栄養科を盛岡栄養専門学 校と改称	昭和 52 (1977) 年 1 月 20 日 生活学園短期大学保育科を幼児教育科 と改称
昭和 33 (1958) 年 4 月 1 日 生活学園高等学校開校	昭和 53 (1978) 年 9 月 21 日 学校法人生活学園教会落成（旧四ツ家 カトリック教会を移築）
昭和 36 (1961) 年 4 月 1 日 盛岡調理師学校開校（のちに盛岡調理 師専門学校に改称）	昭和 56 (1981) 年 4 月 1 日 盛岡大学文学部英米文学科、児童教育 学科開設（英米文学科はのちに英語文 化学科に改称）
昭和 40 (1965) 年 5 月 21 日 盛岡栄養専門学校の廃止	昭和 62 (1987) 年 4 月 1 日 盛岡大学文学部日本文学科開設
昭和 39 (1964) 年 4 月 1 日 生活学園短期大学食物栄養科開設（現 盛岡市みたけ） 栄養士養成施設として厚生省から指定	昭和 62 (1987) 年 9 月 20 日 盛岡大学とカナダ・カモーンソン大学と の間の姉妹校協定締結
昭和 40 (1965) 年 1 月 21 日 収容定員変更の学則変更届受理される （50 → 100 名）	平成元 (1989) 年 7 月 25 日 法人本部及び盛岡大学砂込キャンパス に移転（岩手郡滝沢村滝沢字砂込 808）
昭和 40 (1965) 年 2 月 17 日 教員の免許状授与の所要資格を得させ るための課程認定（中学校家庭）	平成 2 (1990) 年 4 月 1 日 学校名の変更 生活学園短期大学を盛岡大学短期大学 部に、生活学園高等学校を盛岡大学附 属高等学校に、愛育幼稚園を盛岡大学 附属愛育幼稚園に、生活学園短期大学 附属幼稚園を盛岡大学附属厨川幼稚園 に、松園幼稚園を盛岡大学附属松園幼 稚園にそれぞれ名称を変更
昭和 40 (1965) 年 4 月 1 日 生活学園高等学校厨川校舎に移転	平成 2 (1990) 年 6 月 12 日 生活学園創立者、盛岡大学学長細川泰 子召天
昭和 41 (1966) 年 4 月 1 日 生活学園短期大学保育科開設 保母養成施設として厚生省から指定	
昭和 43 (1968) 年 4 月 1 日	

- | | |
|--|--|
| 平成 2 (1990) 年 10 月 12 日
盛岡大学短期大学部砂込キャンパスに移転 | 学校法人盛岡大学創立 50 周年記念式典 |
| 平成 5 (1993) 年 4 月 1 日
盛岡大学学生会館（盛岡大、同短大部学生寮）開館 | 平成 17 (2005) 年 4 月 1 日
盛岡大学短期大学部食物栄養科に教職課程（栄養教諭）設置 |
| 平成 7 (1995) 年 4 月 1 日
学校法人生活学園を学校法人盛岡大学に名称変更 | 平成 17 (2005) 年 4 月 1 日
盛岡大学文学部文学部社会文化学科開設 |
| 平成 11 (1999) 年 11 月 10 日
学校法人盛岡大学創立の日を昭和 26 年 6 月 15 日とすることについて理事会で議決 | 平成 17 年 (2005) 9 月 26 日
盛岡大学新図書館開館 |
| 平成 12 (2000) 年 3 月 31 日
盛岡大学短期大学部食物栄養科の教職課程（中学校家庭科）廃止 | 平成 21 (2009) 年 10 月 30 日
盛岡大学栄養科学部設置認可及び寄附行為変更認可 |
| 平成 12 (2000) 年 4 月 1 日
盛岡大学短期大学部食物栄養科にフーズスペシャリスト養成課程 を設置 | 平成 22 (2010) 年 3 月 18 日
（財）短期大学基準協会による平成 21 年度第三者評価において盛岡大学短期大学部が適格と認定される |
| 平成 13 (2001) 年 3 月 31 日
盛岡大学附属愛育幼稚園閉園 | 平成 22 (2010) 年 4 月 1 日
盛岡大学栄養科学部栄養科学科開設
管理栄養士養成施設として指定
盛岡大学短期大学部食物栄養科募集停止 |
| 平成 13 (2001) 年 6 月 15 日
盛岡大学礼拝堂を学校法人盛岡大学細川泰子記念礼拝堂と命名 | 平成 23 (2011) 年 3 月 31 日
盛岡大学短期大学部食物栄養科廃止 |



滝沢村砂込キャンパス（平成 15 年頃撮影）

資料 2 食物栄養科 卒業生数

卒業年度		回生	人数
1965	昭和 40	1	69
1966	41	2	92
1967	42	3	142
1968	43	4	210
1969	44	5	150
1970	45	6	61
1971	46	7	60
1972	47	8	69
1973	48	9	56
1974	49	10	75
1975	50	11	106
1976	51	12	121
1977	52	13	105
1978	53	14	107
1979	54	15	113
1980	55	16	111
1981	56	17	110
1982	57	18	108
1983	58	19	111
1984	59	20	107
1985	60	21	95
1986	61	22	83
1987	62	23	112
1988	63	24	113
1989	平成元	25	119
1990	2	26	102
1991	3	27	96

1992	4	28	118
1993	5	29	116
1994	6	30	124
1995	7	31	117
1996	8	32	112
1997	9	33	117
1998	10	34	111
1999	11	35	118
2000	12	36	111
2001	13	37	111
2002	14	38	114
2003	15	39	116
2004	16	40	109
2005	17	41	110
2006	18	42	114
2007	19	43	109
2008	20	44	106
2009	21	45	108
2010	22	46	107
計			4,951

資料3 昭和39年度 教育課程表

区分		学科目名	単位数		
			必修	選択	合計
一般教育科目	人文	心理学	2		2
		音 楽	2	2	4
		美 術		2	2
	社会	法 学		4	4
		経済学	2		2
		社会学	2		2
	自然	物理学	2		2
		化 学	2	2	4
		統計学		2	2
	(計)		(12)	(12)	(24)
	外国語科目	英 語	2	2	4
		仏 語		2	2
		(計)	(2)	(4)	(6)
保健体育科目	体育理論	1		1	
	体育実技	1		1	
	(計)	(2)		(2)	
専門教育科目	栄養学総論	1		1	
	栄養化学	3		3	
	栄養生理学	2		2	
	栄養病理学	2		2	
	特殊栄養学		4	4	
	栄養学実験	1		1	
	特殊栄養学実習		3	3	
	食品化学	2		2	
	(計)	(26)	(43)	(69)	
合 計		42	59	101	

資料 4 昭和 42 年度 教育課程表

区分	学科目名	単位数		
		必修	選択	合計
一般教育科目	人文学	2		2
	音楽	2	2	4
	美術		2	2
	宗教	2		2
	法（含憲法）学		4	4
	経済学	2		2
	社会学	2		2
	物理学	2		2
	化学	2	2	4
	統計学		2	2
	（計）	(14)	(12)	(26)
	外国語科目	2	2	4
	仏語		2	2
	（計）	(2)	(4)	(6)
保健体育科目	体育理論	1		1
	体育実技	1		1
	（計）	(2)		(2)
専門教育科目	栄養学総論	1		1
	栄養化学	3		3
	栄養生理学	2		2
	栄養病理学	2		2
	特殊栄養学		4	4
	栄養学実験	1		1
	特殊栄養学実習		3	3
	食品化学	2		2
	食品材料	2		2
	応用微生物		1	1
	食品加工貯蔵	1		1
	（計）	(14)	(12)	(26)
専門教育科目	食品学実験	1	1	2
	衛生行政及び衛生統計	1		1
	公衆衛生学	3		3
	公衆衛生学実習		2	2
	食品衛生学	3		3
	食品衛生学実験		1	1
	栄養指導理論	3		3
	給食管理理論	1		1
	給食管理実習		2	2
	調理理論	3		3
	調理実習	6		6
	食糧経済	2		2
	社会福祉		2	2
	家庭看護学		2	2
	育児学		2	2
	被服学		2	2
	衣料学		2	2
	被服構成及び実習		2	2
	家庭機械及び工作		2	2
	住居学		2	2
	家庭管理		2	2
	（計）	(37)	(32)	(69)
専門教育科目 教職に関する	教育原理		2	2
	教育心理学		2	2
	青年心理学		2	2
	道徳教育の研究		2	2
	家庭科教育法		2	2
	教育実習		2	2
	（計）		(12)	(12)
合 計		55	60	115

資料5 昭和51年度 教育課程表

区分	学科目名	単位数		
		必修	選択	合計
一般 教育 科目	人 文			
	宗 教	2		2
	文 学		2	2
	美 術		2	2
	心理学		2	2
	社 会			
	日本国憲法		2	2
	経済学		2	2
	法		2	2
	自 然			
	自然科学概論		2	2
	生物学		2	2
	化 学		2	2
	(計)	(2)	(18)	(20)
外国 語 科 目	英 語		2	2
	(計)		(2)	(2)
保健 体育 科 目	保健体育	1		1
	体育実技	1		1
	(計)	(2)		(2)
専 門 教 育 科 目	栄養学総論	1		1
	栄養生理・生化学	4		4
	特殊栄養学		1	1
	特殊栄養学実習		3	3
	病態栄養学総論		2	2
	病態栄養学各論		3	3
	公衆栄養		1	1
	食品化学	2		2
	食品化学実験	2		2
	食品材料学		2	2
	食品加工貯蔵学	2		2
	(計)	(30)	(39)	(69)
専 門 教 育 科 目 教 職 に 関 する	食品加工貯蔵学実習		1	1
	食品衛生学		3	3
	食品衛生学実験		1	1
	公衆衛生学	2	3	5
	公衆衛生学実験		1	1
	栄養指導	4		4
	校内実習		3	3
	校外実習		3	3
専 門 教 育 科 目	調 理	2		2
	調理実習	4	2	6
	食糧経済	2		2
	社会福祉	1		1
	育児学	2		2
	被服学		2	2
	衣料学		2	2
	被服構成及実習		2	2
	家庭機械及家庭電気		2	2
	住居学		2	2
	家庭経営	2		2
	(計)	(30)	(39)	(69)
	教育原理		2	2
	教育心理学		2	2
	青年心理学		2	2
	家庭科教育法		2	2
	道德教育の研究		2	2
	教育実習		2	2
	(計)		(12)	(12)
合 計		34	71	105

資料 6 昭和 62 年度 教育課程表

区分		学科目名	単位数		
			必修	選択	合計
一般 教育 科目	人 文	宗 教	2		2
		哲 学		2	2
		文 学		2	2
		美 術		2	2
		心理学		2	2
	社 会	日本国憲法		2	2
		経済学		2	2
		法 学		2	2
		社会学		2	2
	自 然	自然科学概論		2	2
		生物学		2	2
		化 学		2	2
		統計学		2	2
		(計)		(2)	(24)
外国 語 科 目	英 語	2		2	
	(計)		(2)		(2)
保健 体育 科 目	保健体育	1		1	
	体育実技	1		1	
	(計)		(2)		(2)
専 門 教 育 科 目	専 門 教 育 科 目	解剖生理学	2		2
		解剖生理学実習		1	1
		運動生理学	1		1
		生化学		2	2
		生化学実験		1	1
		食品学総論	2		2
		食品学総論実験		1	1
		食品学各論		2	2
		食品学各論実験		1	1
		食品加工学	2		2
		食品加工学実習		1	1
合 計		37	73	110	

資料7 平成14年度 教育課程表

区分	授 業 科 目	単位数		授業形態
		必修	選択	
教 養 教 育 科 目	教養科目系	キリスト教概論	2	講義
		国語と表現	2	講義
		文学入門	2	講義
		美術入門	2	講義
		音 楽	2	講義
		行動の心理	2	講義
		くらしと法律	2	講義
		異文化理解	2	講義
		環境科学	2	講義
		生物学	2	講義
		基礎化学	2	講義
		統計の基礎	2	講義
		情報処理入門	2	演習
		(計)	(2)	(24)
	外国語科目系	プラクティカル コミュニケーション	2	演習
		コミュニケーションインライティング	2	演習
		国際英語Ⅰ	2	演習
		国際英語Ⅱ	2	演習
		海外英語研修	2	演習
		基礎ドイツ語	2	演習
		基礎フランス語	2	演習
		基礎中国語	2	演習
		基礎韓国語	2	演習
		(計)		
	体育科目系	健康と運動Ⅰ	1	実技
		健康と運動Ⅱ	1	実技
		(計)	(4)	(14)
専 門 教 育 科 目	専門教育科目	解剖生理学	2	講義
		栄養生理学実験	1	実験
		健康運動論	2	講義
		生化学	2	講義
		生化学実験	1	実験
		食品科学	2	講義
		食品環境学	2	講義
		食品科学実験	1	実験
		基礎栄養学	2	講義
		応用栄養学Ⅰ	2	講義
		応用栄養学実習Ⅰ	1	実習
		応用栄養学実習Ⅱ	1	実習
		栄養指導論	2	講義
		栄養教育論	2	講義
		栄養情報処理実習	1	実習
		栄養指導論実習	1	講義
		臨床医学入門	2	講義
		臨床栄養学概論	2	講義
		臨床栄養学実習	1	講義
		公衆栄養学概論	2	講義
		給食管理	2	講義
		給食管理実習Ⅰ	1	実習
		学外給食実習Ⅰ	1	実習
		学外給食実習Ⅱ	1	実習
		食品衛生学	2	講義
		食品衛生学実験	1	実験
		公衆衛生学	2	講義
		調理科学	2	講義
		調理科学実習	1	講義
		基礎調理実習	1	講義
		専門調理実習	1	講義
		健康づくり論	2	講義
		人間環境学	2	講義
		食の美学	2	講義
		社会福祉概論	2	講義
		応用栄養学Ⅱ	2	講義
		薬と食事	2	講義
		食文化論	2	講義
		フードスペシャリスト論	2	講義
		食品評価論	1	演習
		食品鑑別論	1	演習
		食品流通論	2	講義
		専門基礎演習	2	演習
		食事計画論	2	講義
		(計)	(27)	(44)
		合 計	33	84

資料 8 平成 17 年度 教育課程表

区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態
		必修	選択	
教 養 教 育 科 目	教養科目系	キリスト教概論	2	講義
		日本国憲法	2	講義
		国語と表現	2	講義
		文学入門	2	講義
		美術入門	2	講義
		音 楽	2	講義
		行動の心理	2	講義
		くらしと法律	2	講義
		異文化理解	2	講義
		環境科学	2	講義
		生物学	2	講義
		基礎化学	2	講義
		統計の基礎	2	講義
		情報処理入門	2	演習
		(計)	(2)	(26)
	外国語科目系	プラクティカル コミュニケーション	2	演習
		コミュニケーションインライティング	2	演習
		国際英語 I	2	演習
		国際英語 II	2	演習
		海外英語研修	2	演習
		基礎ドイツ語	2	演習
		基礎フランス語	2	演習
		基礎中国語	2	演習
		基礎韓国語	2	演習
		(計)	(4)	(14)
	体育科目系	健康と運動 I	1	実技
		健康と運動 II	1	実技
		体育学	1	講義
		(計)	(3)	
	専 門 教 育 科 目	解剖生理学	2	講義
		栄養生理学実験	1	実験
		健康運動論	2	講義
		生化学	2	講義
		生化学実験	1	実験
		食品科学	2	講義
		食品環境学	2	講義
		食品科学実験	1	実験
		基礎栄養学	2	講義
		応用栄養学 I	2	講義
		応用栄養学実習 I	1	実習
		応用栄養学実習 II	1	実習
		栄養指導論	2	講義
		栄養教育論	2	講義
		(計)	(27)	(68)
		合 計	33	108

専 門 教 育 科 目	栄養教育情報処理演習	2	演習
	栄養指導論実習	1	実習
	臨床医学入門	2	講義
	臨床栄養学概論	2	講義
	臨床栄養学実習	1	実習
	公衆栄養学概論	2	講義
	給食管理	2	講義
	給食管理実習 I	1	実習
	学外給食実習 I	1	実習
	学外給食実習 II	1	実習
	食品衛生学	2	講義
	食品衛生学実験	1	実験
	公衆衛生学	2	講義
	調理科学	2	講義
	調理科学実習	1	実習
	基礎調理実習	1	実習
	専門調理実習	1	実習
	健康づくり論	2	講義
	人間環境学	2	講義
	食の美学	2	講義
	社会福祉概論	2	講義
	応用栄養学 II	2	講義
	薬と食事	2	講義
	食文化論	2	講義
	フードスペシャリスト論	2	講義
	食品評価論	1	演習
	食品鑑別論	1	演習
	食品流通論	2	講義
	専門基礎演習	2	演習
	食事計画論	2	講義
	児童の栄養管理と指導	2	講義
	教職総論	2	講義
	教育原理	2	講義
	教育心理学	2	講義
	教育制度論	1	講義
	教育課程及び方法	2	講義
	道德教育の研究	2	講義
	特別活動の研究	2	講義
	生徒指導の研究	2	講義
	教育相談	2	講義
	教育演習	2	演習
	栄養教育実習	3	実習
	(計)	(27)	(68)
	合 計	33	108

4 参考資料

- 1) 生活学園短期大学学生便覧（昭和 56 年度～平成 2 年度）
- 2) 盛岡大学短期大学部学生便覧（平成 3 年度～平成 23 年度）
- 3) 生活学園短期大学入学案内（昭和 39、43、46、47、48、50、52～63 年度）
- 4) 盛岡大学短期大学部食物栄養科閉科記念誌「食物栄養科のあゆみ」（グラビア）、平成 23 年 3 月
- 5) 学校法人盛岡大学創立 50 周年記念誌、平成 13 年 6 月
- 6) 1998 年度盛岡大学短期大学部自己点検・評価' 98（教育研究活動の現状と展望）
- 7) 2003 年度盛岡大学短期大学部自己点検・評価' 03（教育研究活動の現状と展望）
- 8) 2009 年度自己点検・評価報告書
- 9) 栄養調理関係法令研究会編集：「栄養関係法規類集 1」，新日本法規
- 10) 厚生労働省法令等データベースサービス，<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/>

あとがき

昭和 39 年に盛岡大学短期大学部食物栄養科が設立されて 47 年を経過してきたあゆみは、それぞれの時代の教職員の方々が努力して築き上げてきたものを基礎にして、一步一步新しい道を構築して来た足跡が見られます。

47 年をさかのぼる多くの資料を短期間にまとめるには困難を要し、未だ不明な個所があります。この拙い資料が少しでも何かの参考になれば幸いです。

最後に、この「食物栄養科のあゆみ」を作成するに当たって、終始ご援助下さいました事務局総務部の皆さん、短期大学部学生部の皆さんに心から感謝いたします。



盛岡大学短期大学部（平成 2 年～）